



佐藤 広幸 議員

# 保、小、中一貫教育のあり方は、中学校 移転場所によって変わるのではないかと 時間をかけて進めていく



移転か大規模改修かを待つ中学校

**【質問】** 町の一貫教育は保小、中の連携、協力によるところから始められていますが、中学校をどこに移転するか、仮に小学校との併設も可能なのかで、一貫教育の指針も大きく変わってくるのではないかと。それは、建物の移転だけで済む問題ではなく、一貫教育の行い方においてハード面と体系付けたものにならなければならぬと考えるためです。また、財政面の懸念も新

**【町長】** 舟形中学校の整備方針は、令和2年度中に移転するのか大規模改修

を行うのか、その判断を方針として示したいと考えています。今まで町が取り組んできた一貫教育とは、法的に制度化された小中一貫教育校ではありません。教員が情報交換や研修、相互交流などを行いながら小中一貫教育を目指す「連携型の一貫教育」です。

一方、法的に制度化された小中一貫校には、大きく二つの類型があります。一つは「義務教育学校」と呼ばれるもので、小学校課程から中学校課程までの9年間の義務教育を一貫して行う学校を指します。もう一つは、既にある小中学校を組み合わせて一貫教育を行う学校で、「小中一貫型小学校・中学校」と呼ばれます。両者とも、学校の立地によって施設一体型施設隣接型、施設分離型の3タイプがあります。今後、移転か改修かの方針を示した後、教育委員会を中心として多様な一貫教育についても検討を

**【質問】** 現在、中学生に町の働く場所を紹介する「ふながた WAKU WAKU WORK」を行っているが、小学5

## ふながた WAKU WAKU を小学生にも 成長に合わせて実施

**【町長】** それぞれ、発達段階の違う小学生に、同様の内容で実施するのは少し早いだろうと考えます。また、対象を拡大することとは、「その年齢にあった伝え方」という大きな負担を企業側に強いこととなりますので、事業の定着状況や企業のスキルアップの進捗を見ながら慎重な検討が必要と考えています。



舟形調剤薬局の仕事を体験



荒澤 広光 議員

# 町内避難施設の現状調査が課題

## 施設周辺の環境を再点検し対策を検討する



崩落が心配される避難所

**【質問】** 災害の発生が想定される時に、地域住民は避難所に避難する訳ですが、町内37箇所の避難所が本当に安全なのか、私の視点で層別してみます。避難経路が断たれるおそれのある避難所、土砂崩れ、倒木のおそれのある避難所、建物法面の崩落が心配される避難所があります。現在の避難所が本当に安全なのか、再点検する必要があると思います。町としての考えを伺います。

**【町長】** 現在、指定緊急避難場所37箇所、指定避難所13箇所をホームページで公表しています。うち、指定緊急避難場所は災害から一時的に避難する場所、洪水、崖崩れ、土石流及び地滑り、地震、大規模な火災等の災害の種別ごとに指定することになっています。一方、指定避難所は災害の危険性があり避難した住民を一定期間避難させる施設です。土砂災害警戒区域内の施設に関しては、指定緊急避難場所としての指定を外しています。また今後、浸水想定区域内と思われる施設は、詳しく確認した上で洪水の際の指定緊急避難場所の指定を外す必要があると考えています。これ以外の

指定緊急避難場所についても、周辺環境を再度点検し、必要な見直しや対策を検討していきます。

## 異常な少雪・暖冬、 対応が必要では 国や県の情報を共有し 対策に当たる

**【質問】** 今年は過去に例のない少雪で、除雪に関わる町民、企業の方々へ多大な影響を与えていると思います。これから農業も始まり少雪による農業への悪影響、他産業への影響を想定する必要があります。水不足、集中豪雨、冷夏、冷害、猛暑等、想定できる影響、想定できない影響等あるかと思いますが、この異常気象の影響が最小限に抑



雪のない富田一本杉周辺の風景（1月31日撮影）

**【町長】** 今年は近年まれにみる暖冬少雪で、昭和47年以来、当時は水稲栽培で水不足が懸念され、6月は天候不順、7月と8月には低温に見舞われ、茎数不足と不稔が多発し、作況指数は95のやや不良の結果でした。過去の例から渇水、低温対策も視野に入れ対策の検討が必要と思われれます。県では「暖冬少雪に関する農作物等技術対策会議」を開催しており、町として情報を共有し、国・県の助言をいただきながら、各種農業者団体、農協、関係機関と連携を密にし渇水対策、低温対策に努めていきます。